

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		人間実践論Ⅰ Philosophical Theory of Human Acts I			担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之		
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	哲学・思想(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	月4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
フランスの現象学者メルロ＝ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。『知覚の現象学』の時期の彼の思想の流れを知覚論、身体論を中心にたどってゆきたい。									
【到達目標】									
メルロ＝ポンティを通じて、知覚論、心身問題を中心にした哲学の代表的な議論を学ぶ。そのことで哲学的なものの見方を習得する一助としたい。									
【授業計画と内容】									
総題：メルロ＝ポンティの思想 (1) 現象学とは何か 現象学という立場(第1～2回) (2) 身体:世界に住み込む、意味により組織化された身体 身体の謎――導入(第3回) 機械的身体観と現実の身体(第4～5回) 身体図式(第6回) 実践の主体としての身体――ハイデガーを手がかりに(第7回) 身体の主体と身体(第8～9回) 実存と事実性(第10回) (3) 実存による知覚 古典的知覚観批判(第11回) 実存による知覚(第12回) (4) 実存的意味と自然 実存的意味と知覚的意味(第13回) 非人間的な自然と人間的意味(第14回) フィードバック：詳細は別途連絡する。									
【履修要件】									
1回生の受講は原則的に認めない。哲学・思想系の基礎論科目のなかから「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「西洋社会思想史」、「科学論」、「宗教学」のどれかひとつ以上を履修済みであることが望ましい。									
【成績評価の方法・観点】									
授業に関連するレポートを2回提出してもらう予定であるが、そのレポートによって評価する。									
-----人間実践論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓-----									

人間実践論Ⅰ(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

関心のある者は、授業中に紹介した参考書を読んで、自ら学習を深めてほしい。

[その他(オフィスアワー等)]

[主要授業科目(学部・学科名)]